



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

# 佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

- 発行：令和2年6月
- 発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
- 発行者：理事長 中尾清一郎
- 編集：法人広報誌編集委員

# 学園タイムス

## 2020-6 Vol.26

Sagaseishigakuen times

社会福祉法人 佐賀整肢学園

### 「桜並木」

仕事の帰りに、ふと周りを見渡すと、コスモス園沿いに綺麗な桜並木が連なっていました。風に揺れて、まるで「お疲れ様、明日も1日頑張ってるね」と言われている様でした。来年は家族や友人とお花見出来る日が来ますよう、祈るばかりです。



- 巻頭言...2
- REPORT...3
- 令和2年度新規採用職員紹介...4~6
- タイムス特集...7
- 事業所 TOPICS...8~9
- 局長随想 リレーコラム...10
- ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ...10

<b>法人事務局</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-97-6611 FAX0952-97-6611	<b>こども発達医療センター</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391	<b>オークス</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立168-1 TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772	<b>かんざき清流苑</b> 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977
<b>在宅サポートセンターかんざき清流苑</b> 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8915 FAX0952-52-9977	<b>からつ医療福祉センター</b> 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	<b>からつ医療福祉センター-在宅事業部</b> 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	<b>からつ医療福祉センター-好学会</b> 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2787-1 TEL0955-78-1123 FAX0955-78-3001
<b>糸島子どもとおとなのクリニック</b> 〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63-1 TEL092-327-0073 FAX092-327-0361	<b>かんざき日の隈寮</b> 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2950-2 TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229	<b>佐賀向陽園</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立801-1 TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145	<b>居宅介護支援センターわいわい</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立799番地 TEL0952-71-8250 FAX0952-71-8252





## 「私の履歴書」

佐賀整肢学園からつ医療福祉センター  
久里双水園施設長

岩瀬 裕幸

世間は新型コロナウイルスの話題で一色である。情報番組も一日中コロナの話題は尽きない。流行語大賞は間違いなくコロナ関係だろう。東京オリンピックもプロスポーツ、甲子園、高校総体等々、いろんなスポーツも中止及び開催日未定の延期となっている。特に、高校生たちは青春真只中でのコロナ対策に、泣くに泣けない状況で仕方ないと割り切ったとしても、残念な気持ちは察することができる。

経済においても緊急措置も色々出されているが、いつになったら元の状況に戻れるかは誰も知ることができない。学生も親も休校で困り果てている。

医療・福祉の世界も、クラスターが発生した時点でアウトになってしまう。職員のストレスは、密着が避けられないので非常に大きなものとなっている。当センターも、複合施設で病院、入所施設、通園事業等があり感染対策が求められる。そのため、原センター長自ら作業服で、対応策の作業等に日々奮闘されている。感染及び疑いが発生した時のための感染症ユニットの整備、監視カメラの追加、職員の制服等の滅菌庫の整備、床面の清潔を図るための病棟内専用サンダルの購入及び洗濯のシステム作り、手作りマスクの整備、次亜塩素酸での消毒液作成等々、またプラスマクラスターは追加で購入し、約100台が稼働している。また複合施設であるのでそれぞれの職員の動線、休憩室、更衣室もできる限り交わらないように対応した。まだまだ対応策はたくさんあるが・・・とにかく、この巻頭言が皆さんの目に触れる頃は自粛も緩み、通常に近い生活状況に戻っていることを祈っている。また、政府の対応にも問題が多く、全国身障協の日野会長が職員研修等で何度か話された、武田信玄の言葉を思い出した。その言葉は「一生懸命すれば知恵が出る」、「中途半端にすれば愚痴が出る」、「いい加減にすれば言い訳ばかり」と言う言葉である。

さて本題の「私の履歴」についてであるが、佐賀整肢学園に就職して早32年目である。現在、法人全体の職員が1000名ほどになった。そこで32年の歴史を皆さんの記憶の中に少しでも留めて貰えたらと願ったからである。

私は、福岡の某大学を卒業し、某電機メーカーに就職し

た。そこでは6年ほど働いたが、母親を早くに亡くし、その後父が亡くなった年に佐賀に戻ろうと思い退職を決意した。その時は保育士にでもなろうかなと思っていたが、父のスポーツ関係の旧友でもあった白石保養院の緒方院長の勧めで理学療法士養成校を受験した。その当時養成校の倍率は約10倍で、当然不合格であった。しかし、一旦目指した道なので、浪人する覚悟で明日から図書館に行き勉強しようと思った矢先に、養成校から辞退者が出たのでどうしますか？との連絡があった。人生1回目のラッキーであった。

卒業後は武雄の整形外科病院に内定していたが、小児リハの希望もあって、教官から佐賀整肢学園が募集を出しているとのことで早速受験した。その頃社会人経験者の採用が無かったので、採用には色々議論されたらしい。どうか合格となり就職した。人生2回目のラッキーであった。それから13年間、こどもセンターで小児のリハビリに携わり、非常に充実した日々を送ってきた。

平成14年、からつ医療福祉センターが開設され、原院長から「踏み石になれ」と説得され、久里双水園の施設長を拝命した。開設当初は利用者の方も、病院から施設に入所された方が半数以上おられ、色々な大変な出来事が日々起きて、そのため夜中に呼び出されることも多く、これって福祉施設？と思ったこともあった。他の利用者さんの安全・安心を脅かす利用者には厳しく対応し、退所の話をした事もあった。その結果、今では平和な日々が続いている。しかし、小さな問題点はまだあるけれど。今までのリハ人生とは打って変わった仕事となったけど、今の自分に与えられている役（施設長）を演じきることを肝に銘じ頑張ってきた。

最後に、これからも自分たちと一緒に頑張ってくれる皆さんへ贈る言葉ですが、これも日野会長が講演等で話され印象に残っている言葉です。「究極の4つの幸せ」（虹色チョーク：小松成美）(1)人に愛されること、(2)人に褒められること、(3)人の役に立つこと、(4)人から必要とされること、いまでも私は心の中で繰り返している。

## 理事会 報告

### 法人中長期計画

令和2年3月30日に第5回理事会が開催されました。通常は事務局及び各施設事務長等も同席し、審議に対する説明等を行いますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、理事及び監事を中心に、人数を制限しての開催となりました。今回の理事会では、令和1年度の最終補正予算、各種規則改正等の議案とともに、令和2年度の事業計画及び当初予算が議決されました。

目まぐるしく変化する社会情勢や医療福祉制度の改正、また近年頻発している自然災害や今回の新型コロナウイルスのような目に見えない感染症に対する緊急時対応など、法人を取り巻く環境には厳しさと不透明感が増しています。そのような状況のなかでも、社会福祉法人としての責務を果たすべく、利用者、職員そして地域社会のために中長期的な展望に基づいた計画的な事業展開と安定した事業継続が必要となります。今回の理事会において議決された法人中長期計画についてご報告します。

令和2年度	中期計画 (令和3年度～7年度)	長期計画 (令和8年度～)
<b>①こどもセンター</b> ・周辺隣接地取得 ・職員宿舍新築、リフォーム <b>②からつセンター</b> ・職員宿舍建設 ・駐車場整備 ・外壁・屋根改修 ・エアコン改修 ・災害ガスバルク設置 <b>③清流苑・日の隈寮</b> ・北側隣接農地取得 <b>④向陽園</b> ・ICT等の導入 ・低所得高齢者住居生活支援	<b>①こどもセンター</b> ・北側用地取得 ・市道南側用地取得 ・西棟増築 ・重度障害者 GH 事業 ・サービス付き高齢者住宅 ・就労支援事業 <b>②オークス</b> ・駐車場整備 ・重度障害者 GH 事業 <b>③からつセンター</b> ・ピロティの耐震化・防災化 ・高齢者用住宅 ・高齢者デイケアセンター	<b>①オークス</b> ・サービス付き高齢者住宅等 <b>②向陽園</b> ・養護老人ホーム本体改築等 <b>③日の隈寮</b> ・居宅生活訓練棟 <b>④清流苑</b> ・総合福祉サービス施設整備 介護保険サービス 有料老人ホーム 地域交流ホール等

## 新任 紹介

令和2年度は、こども発達医療センターに1名の医師を新たに迎えました。

### 令和2年4月より赴任

#### ●こども発達医療センター

#### 整形外科



イ ヨンスン  
李 容承 医師

九州大学医学部卒業  
福岡市立こども病院より赴任

- 所属学会等
- 日本整形外科学会
- 西日本整形・災害外科学会
- 日本小児整形外科学会

はじめまして。整形外科の李 容承（イ ヨンスン）と申します。韓国・ソウル出身で、日本の戦国時代が好きです。平成24年に九州大学を卒業し、平成26年に九州大学整形外科に入局しました。入局後は平成26年度に済生会八幡総合病院、平成27年度に福岡市民病院、平成28年・29年度に福岡県立粕屋新光園、平成30年度に総合せき損センター、平成31年度に福岡市立こども病院で研修をして参りました。小児整形に関わりたと思ったのは、医学部5年の時に福岡市立こども病院での実習で子供達と楽しく過ごすため、学園の先生方のお陰で小児整形の現場で働けることに感謝しております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。





# 新採職員紹介

今春は39名の新規採用職員を新たに迎えることができましたが、全員参加の辞令交付式はコロナ対策上開催できず、各施設の代表1名に、令和2年4月1日に中尾清一郎理事長より辞令が交付されました。また、新規採用職員を代表して、こども発達医療センター配属の副島真也さんが誓いの言葉を述べました。新たな仲間を加え、法人全体で、職員は約990名になりました。(4月1日現在)

## 誓いの言葉

私たちは、時代の要請を的確に把握し、総合力を高めて医療・福祉サービスの提供に、先進的かつ積極的に取り組みます。  
 私たちは、利用者とその家族の思いをわが思いとして、利用者の明るく、充実した暮らしの実現に努めます。  
 私たちは、医療・福祉の専門家としての誇りと熱意を持って、常に自己研鑽に努め、利用者の処遇向上を図ります。  
 私たちは、地域の医療福祉の拠点施設として、その機能と役割を十分に発揮できるよう、地域社会との連携と交流促進に努めます。

## 新規採用職員



こども発達医療センター

岡 孝憲

診療放射線技師  
医療課



こども発達医療センター

中野 清楓

作業療法士  
作業療学科



こども発達医療センター

佐々木麻衣

心理療法士  
心理療学科



こども発達医療センター

平尾 慶太

総合職  
第2療育課



こども発達医療センター

原 百花

生活支援員  
第1療育課



こども発達医療センター

川崎 莉奈

生活支援員  
西棟療育課



こども発達医療センター

山口 由姫

保育士  
西棟療育課



こども発達医療センター

杉山 亜美

看護師  
第3療育課



こども発達医療センター

姫野優稀乃

看護師  
第3療育課



こども発達医療センター

副島 真也

看護師  
第1療育課



こども発達医療センター

田中 雅子

看護師  
第2療育課



こども発達医療センター

平山 織江

看護師  
第2療育課



オークス

鶴丸 唯

生活支援員  
入所サービス課



オークス

副島加奈子

生活支援員  
入所サービス課



かんざき清流苑

三好 秀典

介護福祉士  
入所サービス課



**かんぎき清流苑**  
大串 百加  
介護福祉士  
入所サービス課

**在宅サポートセンター  
かんぎき清流苑**  
船川あずみ  
介護福祉士  
在宅サービス課

**からつ医療福祉  
センター**  
福田 康太  
理学療法士  
リハビリテーション課

**からつ医療福祉  
センター**  
吉村 早織  
作業療法士  
リハビリテーション課

**からつ医療福祉  
センター**  
市丸佳奈子  
言語聴覚士  
リハビリテーション課

**からつ医療福祉  
センター**  
宮原 唯希  
児童指導員  
看護生活課

**からつ医療福祉  
センター**  
北島 知世  
看護師  
入所サービス課

**からつ医療福祉  
センター**  
菅原 真弓  
准看護師  
医療課

**からつ医療福祉  
センター**  
居石未三岐  
生活支援員  
看護生活課

**からつ医療福祉センター  
在宅事業部**  
稲葉 麗  
アシスタント調理員  
児発センター課

**からつ医療福祉センター  
在宅事業部**  
大石理恵子  
児童指導員  
児発センター課

**からつ医療福祉センター  
在宅事業部**  
田中 明美  
准看護師  
児発事業課

**からつ医療福祉センター  
好学舎**  
永松 岳  
心理士  
男子棟課

**からつ医療福祉センター  
好学舎**  
坂本 阿弓  
保育士  
女子棟課

**からつ医療福祉センター  
好学舎**  
野崎 茉奈  
児童指導員  
女子棟課

**からつ医療福祉センター  
好学舎**  
古賀茉莉花  
公認心理師  
女子棟課

**からつ医療福祉センター  
好学舎**  
樋口 楓  
心理士  
女子棟課

**糸島こどもとおとなの  
クリニック**  
森松寿和子  
作業療法士  
リハビリテーション課

**糸島こどもとおとなの  
クリニック**  
田原 愛理  
作業療法士  
リハビリテーション課

**糸島こどもとおとなの  
クリニック**  
丸山 葵  
作業療法士  
リハビリテーション課

**佐賀向陽園**  
富山 望  
生活相談員  
入所サービス課

**佐賀向陽園**  
川内理恵子  
生活支援員  
入所サービス課

**居宅介護支援センター  
わいわい**  
原口 健二  
介護職員  
在宅サービス課

**居宅介護支援センター  
わいわい**  
山田 和昌  
生活相談員  
在宅サービス課



上段左から 窪田常務理事、原副理事長、中尾理事長、寺崎常務理事  
下段 新規採用職員各施設代表者（辞令交付式会場 多目的研修施設）



# 新採職員からのひとこと

## こども発達医療センター

看護師 副島 真也

正規職員として採用となり、数ヶ月が経過しました。医療・福祉の現場においての個々に応じたケアはとて学びが深く、1日1日がとても貴重な毎日です。日常のケアの中でみられる利用者さんの笑顔や、私の名前を呼んでもらえる場面も増え、楽しく明るく働かせていただいています。

しかしながら、現在コロナウイルスの猛威にて、当たり前だった平穏な日常が脅かされつつあります。医療現場としての機能も持つこども発達医療センターでは、感染対応策を駆使しながら一刻も早い終息を、利用者の方々と願っています。私もその役割を担う一員として、これからも業務に従事し、貢献できたらと思っています。今後ともよろしく願います。

## オークス

生活支援員 鶴丸 唯

社会人として新たな生活がスタートしました。オークスで生活支援員として勤務していますが、利用者の方一人一人の関わり方や介助方法が異なるので、戸惑うことがまだまだたくさんあります。

知識・技術において、まだまだ未熟ではありますが介助を少しずつ覚えられてきているという実感があり、仕事にやりがいを感じています。

先輩方や利用者の方に教えていただきながら、少しでも早く一人前の介護福祉士になり、利用者の方に安心してもらえるような支援ができるよう、これからも努力していきたいと思っています。

今後ともよろしく願います。

## かんざき清流苑

介護福祉士 三好 秀典

かんざき清流苑で正規職員として働き始めて、早いもので数ヶ月が経ちました。正規職員となり、責任の重さも今までとは全く違うため、利用者の方と接する際の行動や言動に細心の注意を払いながら接しております。業務のほうは、最初は不安や緊張の連続で不慣れなところも多々ありましたが、諸先輩方の優しいご指導のおかげで業務内容を覚えることができました。

これからも現状に満足することなく自己研鑽に努め、利用者の方々に愛される職員になりたいと思います。そんな中で私を支えてくれるのは、去年1月に入籍した優しい妻と今年4月に産まれた娘の存在です。これからは正規職員として仕事に励むのももちろんのこと、一家の大黒柱としても頑張りますので、今後ともよろしく願います。

## からつ医療福祉センター

理学療法士 福田 康太

今年度より、からつ医療福祉センターで理学療法士として働かせていただいております。現在は右も左も分からないような私に、丁寧に一つひとつ指導やアドバイスを下さる先輩方に支えられながら業務を行っています。理学療法士として、利用者の方とどのように関わっていけばよいか日々思い悩んでいますが、まずは、信頼関係を築き、利用者の方々のことを知っていきけるように、積極的に関わっていきけるよう意識して取り組んでいます。

これからも様々なことで悩み、つまづくこともあるとは思いますが、笑顔を忘れずにたくさんの方々のことを経験して、利用者の方の生活に貢献できるように努力していこうと思います。今後ともご指導よろしく願います。

## 糸島こどもとおとなのクリニック

作業療法士 田原 愛理

今年度より糸島こどもとおとなのクリニックで作業療法士として働かせていただくことになりました。臨床経験も知識も浅く分からない事ばかりですが、諸先輩方や利用者の方々に多くを教えていただきながら業務に励んでいます。まだまだ不慣れで目まぐるしく日々が過ぎていきますが、丁寧なご指導と、利用者の方々に笑顔をいただける毎日に感謝しています。

これからも日々精進し、利用者の方とご家族に寄り添った治療が行えるような作業療法士を目指します。今後ともご指導よろしく願います。

## 好学舎

心理士 永松 岳

からつ医療福祉センター好学舎で働き始めて数ヶ月が経とうとしております。3月の研修もあっという間に終わり、好学舎の職員として、子どもたちとの関わり方や、好学舎での仕事など、まわりの先輩方や同期の皆様に支えられながら日々学ばせていただいております。

今年度はコロナウイルスの影響もあり、環境が変化して子どもたちも日々ストレスを感じている中だと思っております。心理士として、生活指導員の一人として、どのようなアプローチが有効であるのかを考え、研鑽していきたい所存です。まだまだ至らない点がたくさんあるとは思いますが、何卒宜しくお願い致します。

## 佐賀向陽園

生活支援員 川内 理恵子

佐賀向陽園に採用され、社会人としてスタートしました。介護経験はなく、知識として頭にあるものでも、実践となるとうまくできず先輩方に習いながらの毎日を過ごしています。業務を学び、利用者一人一人の対応やケアを学び、多忙ではありますがやりがいを感じています。今の私は、まだ未熟ですが、焦らず確実に業務に取り組んでいきたいです。また、利用者の方に早く覚えてもらい、信頼関係を築けるよう努めていきたいです。体調管理に気を付けながら笑顔で頑張っていきます。これからもよろしく願います。

## 居宅介護支援センターわいわい

生活相談員 山田 和昌

今年度より居宅介護支援センターわいわいに採用となり、働かせていただいております。

利用者の方々と関わりの中で学ぶことも多く、毎日が新鮮です。職場の先輩方からの指導もあり、少しずつではありますが、仕事を覚えられているという実感を日々感じています。

利用者の方一人一人と関わりを大切に、何事も親切、丁寧に取り組んでいきたいと思っています。まだまだ私自身の未熟さや知識不足に気づかされることも多く、毎日が勉強と思い努力を重ねていきたいと考えています。利用者の方一人一人が安心していただける様な職員になりたいと思っています。

# タイムス特集

令和元年度の「学園タイムス」は、Vol.22～25 を発刊しました。職員から応募があった表紙写真を振り返ります。

平成27年度から始めた職員からの表紙写真の公募も、令和元年度で5年目を迎えました。今回は、初の試みとして、「佐賀・糸島で撮影した写真であること」だけを条件として、テーマを決めずに募集したところ、過去にないような新鮮な視点の写真が集まりました。

たくさんの写真の中から、佐賀整肢学園に流れるあたたかい空気を感じていただけたら、という思いを込めて編集

委員で4枚を選ばせていただきました。

写真が採用された職員には後日記念品を贈呈致しますので、ここで併せてお知らせいたします。

今年度も引き続き表紙写真を職員より募集します。採用された方には記念品を贈呈させていただきます。詳細は下の募集要項をご確認ください。

編集委員一同、年4冊発刊を目標に努力していきます！



「徐福サイクルロード」  
撮影：下 幸代さん  
(法人事務局)



「祖母と一緒に」  
撮影：佐藤 良恵さん  
(からつ医療福祉センター)



「干し柿作り」  
製作・撮影：総務課数名  
(こども発達医療センター)



「竹灯籠」  
製作：古川 千津子さん  
撮影：吉原 祥太郎さん  
(オークス)

## 令和元年度 その他の応募写真



福吉神幸祭



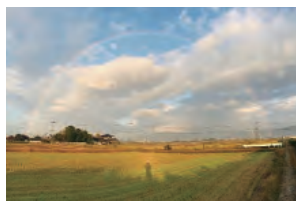
三瀬



天山



佐賀空港



虹



コスモス



紅葉



獅子舞

たくさんのご応募  
ありがとうございました！

## 令和2年度 表紙募集について

今年度も表紙写真を大募集します！今年度もテーマはありません。たくさんの方に気軽に応募していただけたら、という思いから、このようなかたちをとっています。

条件は「佐賀・糸島でとった写真であること」。風景はもちろん、食べ物や飲み物、催事など、佐賀や糸島の魅力が伝わってくる写真を募集します。締切もありませんので、いつでも、何でもお気軽にご応募ください。もちろんスマートフォンで撮った写真もOKです。たくさんのご応募、お待ちしております。



上記QRコードから  
メールで簡単に応募できます！

ご感想やお問い合わせや写真の応募、また特集内容のご要望や学園 FOCUS の自薦他薦は、各事業所の編集委員までどうぞ。

編集委員一同

- 法人事務局
- こども発達医療センター
- オークス
- かんだき清流苑
- からつ医療福祉センター
- かんだき日の隈寮
- 佐賀向陽園・わいわい

- 遠田 佐衣
- 百島 亜希
- 竹下 奈緒
- 竹下亜由美
- 田中 邦典
- 木戸 美恵
- 片淵 瑞紀
- 山口 未佳
- 宮本 稔也



## 趣味の作品展

2月

かんざき日の隈寮

神崎市老人クラブ連合会神埼支部様より御案内があり、今年初めて趣味の作品展に参加させていただきました。この作品展は老人クラブ会員の創作した、絵画、彫刻、陶芸、手芸、書写真等の作品を展示し、高齢者の文化活動と製作者の生きがいを推し進め来場者との交流を深める目的で、毎年開催されています。今年度は、神崎市中央公民館にて2月3日～6日までの4日間に亘り行われ、男女17名の利用者がそれぞれ思い思いに日課や空き時間で作成した塗り絵や書道、編み物等を



しました。見学に行った際は、地域の皆さんの作品を見て「うわー、すごい!」、「これどうやって作ってるんだろう」、「難しそう」など様々な歓声が聞こえました。作品展を通して地域の方と交流ができ、利用者の方にもここにこされておりました。参加したいです」との声が聞けました。今後も地域との交流を図り、利用者の皆さんの社会参加の場を提供できる機会を増やせるよう努めていきたいと思

います。(入所サービス課 生活支援員 西村 夏央)



## 卒園式

3月

からつ医療福祉センター



まつぼっくり教室とアルトンあかりでは、卒園式を行いました。コロナウイルス感染防止対策の為、ご家族一名の参加に制限させていただき、縮小しての開催となりました。

今回で18回目の卒園式となり、まつぼっくり教室14名、アルトンあかり2名と卒園児が一番多い年となりました。会場に入れなご家族には別室にモニターを設置し、ビデオカメラで撮影した映像を見ていただきました。卒園証書を渡

副院長から一人ずつ受け取り、かっこいいポーズで写真を撮ってもらいました。記念品贈呈では、療育中に撮影した写真から選んで作製した写真フレームを、親子で受け取っていただきました。また、ご家族は記念品を受け取られた後、これまでのご苦労や感謝の言葉を伝えて下さり、感動の時間を過ごしました。

これまで卒園・終了された利用者の方は200名となり、地域の小学校や県立特別支援学校へ送り出し、放課後等デイサービス事業や日中一時支援を利用していただけよう、卒園後も継続して支援できる態勢が構築されています。

からつ医療福祉センター児童在宅事業部は、これからも医療と連携しながら、本人支援、家族支援に努めていきたいと思

います。(児童センター管理部 小崎 久美子)

## お楽しみ会

3月

こども発達医療センター

3月17日、第2病棟でお楽しみ会を開催しました。始めに、職員による出し物を行いました。一組目はお笑い芸人の阿佐ヶ谷姉妹のモノマネで、ドレスを着た二人組の職員が登場すると大きな歓声上がり、利用者の皆さんも笑顔で盛り上がっていました。衣装やネタもしっかりと作り込まれていて大変好評でした。二組目は、ゴールデンボンバーの「女々しくて」のダンスを披露しました。多くの方が知っている曲なので利用者の皆さん、職員ともに盛り上がる事ができました。職員は、踊り終わった後に息を切らしていましたが、アンコールをいただき、2回踊ってもらいました。後で「とても面白かった」との声をたくさんいただき、利用者の皆さんは大変喜ばれていました。



お楽しみ会後半は、ホワイトデーが近かったこともあり、自らデコレーションしたお菓子を食べました。トッピングには、生クリームや桜ソースなどを用意し、オリジナルのマドレーヌを作っていただきました。綺麗にトッピングしたり、甘いものが好きな利用者の方は生クリームを多めにつけたりと、楽しそうに過ごされていました。

病棟全体で盛り上がり、思い出に残るお楽しみ会にすることができました。(第2療育課 生活支援員 吉末 卓矢)



# 事業所 TOPICS

(2月～4月)

## フィンガーペイント

3月 オークス



放課後等デイサービスでは、新型コロナウイルスの影響で学校が休校になったり、外出自粛になったりといった違う環境になり、ストレスを抱えている利用者の方々に、施設内でも楽しんでもらえるようなイベントを色々と提案しています。3月27日には、そのうちの一つ、絵の具を手で触り、思っきり汚れて楽しむことができる、フィンガーペイントをしました。オー

クス桜も見頃を迎えていることから、みんなで模造紙に一本の桜の木を描くことに決めました。

まずは絵の具作りです。赤、青、黄、緑、黒、白の6色それぞれの絵の具と洗濯のりを手で混ぜていきます。初めての感触で顔が強張る利用者の方もいましたが、「冷たくて気持ちいい。」「トロトロする。」と、感想を言い合いながら楽しんでいました。桜の木に必要な茶色やピンクの色は自分たちで考え、6色の絵の具を混ぜ合わせて作ってもらいました。「茶色って何色からできるの?」と疑問を持たれていましたが、試行錯誤して色の準備ができました。作った色で模造紙に手やハケで木の幹、枝、花を交代しながら描き、1本の大きな桜の木の完成です。また、個別に画用紙を配ると、2つの色を重ねてみたり、指で絵の具をぼたぼた垂らし模様を作ったりして、一人ひとり素敵な作品ができました。

今後も感染予防を徹底しつつ利用者の方一人ひとりが楽しい時間を過ごすことができるよう、活動の提案をしていきたいです。そして来年はみんなでおやつを持ってお花見に行けることを願います。(在宅サービス課 児童指導員 山北 由希)

## グループホーム花見会

4月

かんざき清流苑

グループホームでは毎年、苑外に出て桜の花見会を行っていましたが、今年は、新型コロナウイルスの影響もあり苑内で行いました。当日は天気も良く、桜も満開に咲いており絶好の花見日和でした。苑内だったので、散歩をしながら花見場所まで利用者の皆さんと一緒に歩きました。桜



の花を見ると「わあ～、綺麗か～。」と皆さん笑顔で喜ばれていました。お昼ご飯は、毎年恒例の利用者の皆さんと一緒に作った、特製手作りお弁当です。箸が止まり、桜に見入られている方。「美味しかね～。」とお弁当に夢中の方。「さくら～♪さくら～♪」と歌を歌われている方。皆さん思い思いに春を満喫されておられました。苑内に咲いている桜は、清流苑が開設した時に植えられた桜だと聞いています。満開の桜を眺めながら、苑内の桜もこんなに綺麗だったのだと改めて感じる事ができ、新型コロナウイルスの対応で大変な事も多い中、利用者の皆さんとゆっくりのんびり桜を見ながらお話をする時間は、私にとっても気分転換の時間となりました。

(在宅サービス課 介護福祉士 大石 恭子)

## 臨時通信

4月

佐賀向陽園・わいわい



現在、世界中で感染が拡大している新型コロナウイルス。状況が刻々と変化する中で利用者のもとより、私たち職員も不安でいっぱいですが「施設内に新型コロナウイルスを持ち込まない」ために、感染予防を徹底しています。感染拡大予防対策のひとつとして、ご家族や関係者の方には、利用者の方との面会を禁止とさせていただいておりますが、ご家族の方からは、「この状況下では仕方がないと分かっているけど、やはり会いたい」との声をお聞きしました。

そこで、利用者の方の日々のご様子の写真をレイアウトし、臨時通信を送らせていただく事になりました。

臨時通信を見ていただくことで、少しでも安心していただければと思います。一刻も早い新型コロナウイルスの終息を願うばかりです。(在宅サービス課 介護職員 片瀨 瑞紀)

# 局長随想

## 「法人設立と年賀はがき」

新型コロナウイルスの蔓延で、今年度予定されていたイベントや行事は、全く開催の目途が立たない状況下にあるが、当法人は今年の8月に創立60周年を迎えるので、何らかの記念事業を行いたいと考えているが予断を許さない状況である。

佐賀整肢学園は、今から60年前の昭和35年8月に、社会福祉法人としてのスタートを切ったが、法人設立に際しては、資金と用地の確保に多大な公的支援をいただいている。

法人経営の原点である肢体不自由児施設の建設候補地については、県内の佐賀市はもとより、鳥栖市、唐津市、嬉野町まで敷地候補地12か所を物色した。最終的には、佐賀市から金立地区の土地(2,913坪・9,613㎡)を無償譲渡していただいて現在地に建設が決まった。一方、建設資金は「お年玉付き年賀葉書寄付金」の多額配分を原資とする補助金、2,000万円を獲得できたのである。

施設整備に要した金額は、建築工事費が1,330万円、設備工事費が520万円、医療機器等購入費が約200万円であった。お年玉年賀はがきの多額配分が無かったら、佐賀整肢学園は誕生していなかったかもしれないのである。

2,000万円と言う金額は、最近の話題としては、金融庁の金融審議会市場ワーキング・グループ報告書『高齢社会における資産形成・管理』が示した、老後に必要な資金が思い浮かぶが、当時の金額を現代に置き換えてみると、大変な金額なのである。法人設立時の昭和35年の国家公務員の高校卒業程度の初任給が7,400円であった。これが、平成27年には約20倍の144,600円となっているので、補助金2,000万円は単純に20倍すれば約4億圓に評価でき、かなりな金額なのである。いずれにしろ、佐賀整肢学園の発足には年賀はがきが大変大きな役割を果たしたのである。このたび、法人監事の佐伯岳歩氏から昭和33年から35年に発売された年賀郵便切手セットの寄贈を受けた。そこで、法人設立時に支援を受けた恩義を未永く忘れることがないようにとの思いから、切手セットをこども発達医療センターの来賓応接室に展示している。法人創立60周年を前に、興味のある方はぜひ一度ご覧いただいて、施設整備に尽力された先人への敬意と感謝の念を深くしてもらいたいと考えている。

(法人事務局長 寺崎 敏光)

# Relay Column

## リレーコラム



からつ医療福祉センター  
総務課

たなか くにのり  
田中 邦典

近所の小学校からの依頼でバイオリン演奏のボランティアをしています。全校朝会で校長先生が絵本(バイオリンが好き動物たちの友情の話)の読み聞かせをされ、その途中で演奏をするものです。この活動を通じて私が小学生に伝えたいことは、絵本に出てくる動物たちと同じように「好き」をいっぱい作って欲しいということです。

「好き」と思う気持ちは誰に強制されるものでもなくて、自分自身の自然な感情です。ポケモンが好き、算数が好き、同じクラスの〇〇君が好き…。「好き」という言葉はそれだけでポジティブになれますし、興味や好奇心を深め、夢を広げます。私自身も普段「好き」という気持ちを常に意識して、逆に「嫌い」という言葉をできるだけ使わないように心がけています。

あるアンケート調査によると、女の子の約7割が「お父さんのことが好き」だそうです。「ママ大好き、兄ちゃん好き、パパ普通…」と普段から振り向いてくれない小3の娘。あの手この手を尽くしていますが、今号が発刊される頃には、「父の日」での結果が出ていることでしょうか(汗)。

NEXT…こども発達医療センターのあの人にバトンタッチ!!

## 令和2年2月～令和2年4月

### 協力ボランティア

- 【清流苑】藤間静浄様(日舞) ビハーラ神埼様
- 【からつ・あ・あ】(か)川打恒子様(書道教室) 加藤万里子様(民謡教室) 田村静二様(絵画教室) 無津路正様(陶芸教室)
- 【日の隈】藤間静浄様(日舞クラブ) 高口美奈子様(フラワーアレンジメントクラブ)
- 【向・わ】西九州大学社会福祉学科様 佐賀少年刑務所様 傾聴ボランティア様

### 施設見学来訪

- 【こども】国際医療福祉大学1名様
- 【からつ・あ・あ】(か)伊万里特別支援学校4名様 相談支援センターそらサポ1名様 玄海町役場2名様 大志小学校2名様 竹木場小学校2名様 玉島小学校1名様 (糸)深江保育園1名様

### 実習生受入

- 【オークス】西九州大学社会福祉学科2名 佐賀女子短期大学地域みらい学科4名
- 【清流苑】西九州大学社会福祉学科2名 喀痰吸引実習1名 佐賀大学医学部8名
- 【からつ・あ・あ】(か)福岡こども短期大学1名 小島病院1名
- 【日の隈】西九州大学社会福祉学科6名
- 【向・わ】西九州大学社会福祉学科2名

# 見どころ

令和2年度の新規採用職員が入職され大変喜ばしい事です。皆さんは新型コロナウイルスの影響で非常事態宣言が発令され、対外的な行事の中止や、「三密」を避け感染予防及び感染拡大防止の徹底をしながら、日々の業務に勤しんでいることと思います。今は法人内の人の行き来を自粛していることで、他事業所の取り組みが見えずにいることと思います。しかし、本号の学園タイムスに凝縮されています。ぜひお手に取り法人の現状を知ってください！新型コロナウイルスが収束し、またきっと元気で会えるように切に願います。

